Die Eiche ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com

Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第２ワールドナーシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

「青壮年部」新設される
-組織の活性化を図る-

千葉県日独協会の第21回年次総会は、5月12日、船橋市中央公民館で開催された。会員37人（委任状57）が出席した。金谷会長による議事進行により、須古副会長による2017年度事業報告*（案）、2018年度の事業計画（案）の説明、また、杉田事

務局長による2017年度収支予算（案）*、2018年度新旧両年度の事業、決算報告（案）、が説明、2017年度の収支決算報告の監査報告が行われた。また、金谷会長より、2018年役員の説明*と組織の活性化を図ることを目的に「青壮年部」の新設することを提案。すべての議案が了承され、総会は滞りなく終了した。

後述の記念講演後、「今日和」にて懇親会が開催され、26名の会員が出席した。須古副会長による朗らかな司会進行の元、和やかな雰囲気に包まれた。

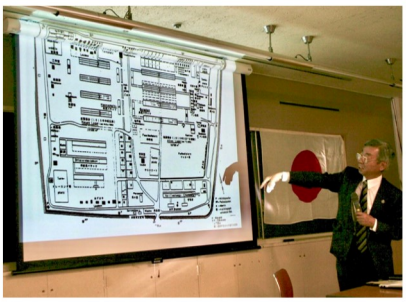
*P3に関連資料掲載

俘虜収容所の新たな写真を入手
-115枚の画像は何を物語るのか-

総会に引き続き、宗宮好和名誉会長から「ボトルシップ研究会が入手した習志野俘虜収容所の写真115枚」と題する講演があった。

周知のように、習志野市には第一次世界大戦で日本軍の捕虜となったドイツ人兵士たちの俘虜収容所があり、約1,000人が収容されていた。

千葉県日独協会では、習志野俘虜収容所に収容されていたドイツ兵たちが、どんな背景をもった人たちであったのか、収容所のなかではどんな生活が営まれていたのか、などを明らかにしようということで、会員有志からなる「ボトルシップ研究会」を立ち上げ、幅広い調査・研究活動を行っている。会の名称は、収容所を慰問した小学生に、捕虜の一人が自作の「ビンに入った帆船模型」（ボトルシップ）をプレゼントしたことに由来する。そのボトルシップが近年見つかり、会のシンボル名となった。



習志野俘虜収容所見取図

このほど「ボトルシップ研究会」は、同収容所の捕虜であったヴィルヘルム ザッセ氏が遺したものを含む115枚の写真を、同氏の遺品継承者である曾孫のエルマー グローセ氏からその使用権を取得した。

そこで、同研究会をリードしてこられた宗宮名誉会長によって、これら115枚の写真を紹介する本講演が行われることになったのである。（次頁へ続く）

はじめて公開された写真の数々をご覧になられた皆さんは、それぞれ様々な思いと感想を抱かれたのではあるまいか。

筆者にとってとくに印象に残ったのは、右の「ドイツ人捕虜から肩を組まれている日本人女性」の写真である。俘虜収容所というと、われわれは捕虜虐待といった悲惨な状況を思い浮かべるが、この写真では、敵国の兵士と日本人女性が仲良く一緒に写っている。この女性の素性は定かでないが、芸者さんのような気もする。捕虜の収容所でこんなことがあるのだろうか？

日本女性と並んで写るヴィルヘルム ザッセ氏

綱引きをする兵士

当時のことが書かれた本を読むと、第一次世界大戦時、日本のドイツ兵捕虜に対する待遇は、戦時国際法に基づいた取扱いがよく守られていたということである。その一例として、日用品や煙草、ビールといった嗜好品を、所内で購入することができた。そんなお金が何故あったのか。戦時国際法にしたがい、日本は捕虜に対して、階級に応じて日本の軍人に対するのと同じように給料を支払っていたそうである。

演劇で女装した兵士

当時の画像を見ると、この女性以外にも収容所内外で撮影された日本人の画像も複数あり、それぞれがどのような背景で収容所の兵士たちと関わりがあったのか、いろいろと想像を掻き立てられる興味深い写真である。

それでは、115枚の写真全体を通して浮かび上がってくる本コレクションのもつ意義は何か。

まず挙げられるのは、ドイツ人兵士たちは、異国の収容所で単なる「捕らわれの身」としてだけでなく、本来従事していた仕事や、それぞれの趣味・特技を活かしながら、母国への帰還を願い、望郷の思いを胸にしつつ、絶望することなく日々の生活を送っていた。その生身の姿を、これらの写真をとおして、われわれは手にとるように見て取れるということである。

21世紀の現実の世界をみるとき、戦争当事者間で「和解」を生み出すことは容易ではない。しかし、これら写真をみると、敵であろうと味方であろうと、そこには共通した思いが見られる。それは一言で言えば、人間らしく生きたいという思いである。それは平和でありたいという思いのようにも見えてくる。

これらの写真は、見る人それぞれに、様々な思いを呼び覚ましてくれるであろう。本コレクションは、そういう意味でたいへん貴重な資料であり、アーカイブであるといえよう。同時に、日独文化交流史のあまり知られていない一こまを記録した興味深い写真集ともなっている。

今後、これら115枚の写真をもとに、「ボトルシップ研究会」の研究がいっそう進展することを願っている。（編集委員　木戸裕）

2018年(平成30年)5月22日(火曜日)

独捕虜と住民 交流の証し

習志野収容所 貴重な資料

日独協会 親族から写真購入

千葉県日独協会（金谷誠一郎会長）は、第一次世界大戦時のドイツ人捕虜を収容した習志野俘虜収容所に関する写真約100枚を親族から購入した。民間人とみられる日本人が捕虜と納まった写真が複数あり、捕虜と地域住民らとの交流があったことを示す貴重な資料と言えそうだ。

同収容所にはドイツ兵約1000人が収容されていた。オーケストラ結成が認められ、収容所外への通学も行われるなど、人道的に処遇されていた。

写真は、1915～19年に同収容所で過ごしたドイツ人水兵のヴィルヘルム・ザッセ氏（1890～1957年）の遺品で、ひ孫のエルマー・クローセ氏が所有。3月初旬に画像の電子データなどがインターネットのオークションで売りに出され、同協会が同月中旬に115枚を購入した。

同協会によると、115枚のうち12枚は地形などから他の収容所で撮影されたとみられるが、残る103枚は習志野俘虜収容所での生活を撮った写真という。

同収容所の厨房で撮影された写真には、農商務省畜産試験場の要請を受け、日本にソーセージの製造法を伝えた捕虜でソーセージ職人のカール・ヤーン氏らとともに、日本人男性が写っていた。

また、捕虜約50人の通学先の集合写真には男女6人の日本人も納まっており、和服姿の女性は捕虜の一人に肩を組まれてほほ笑んでいる。海の家のような場所でくつろぐ捕虜と日本人の姿もあり、捕虜の精神面にも配慮していたことがうかがえる。捕虜と日本人が一緒に撮影された写真は計10枚近くあった。

同協会名誉会長で、写真を分析した宗宮好和・千葉大名誉教授は「習志野の捕虜と地域住民の交流を示す写真は日本側には残っていない。交流があったからこそ、日本人が集合写真に加わったはずだ」と話し、今後、写っている日本人の特定などの調査を進めていくとしている。

読売新聞 5/22朝刊-千葉版より抜粋

当日、読売新聞と千葉日報の記者が総会記念講演を取材。

後日、朝日新聞からも取材があった。関心の強さを伺い知ることができる。

千葉県日独協会
2017年度（平成29年度）決算報告(案)

（自）２０１７年４月１日 （至）２０１８年３月３１日

一般会計

	勘定項目	2017年度予算	2017年度実績	摘 要
収入の部	前年度から繰入	**¥ 426,325**	**¥ 426,325**	
	法人入会金			
	法人年会費	¥ 50,000	¥ 50,000	同和会,清和会,和幸電気工事,京葉ビル管理,ﾍﾞﾝﾂ
	個人入会金	¥ 16,000	¥ 16,000	8名
	個人年会費	¥ 363,000	¥ 381,000	含先払い5名
	行事収入	¥ 50,000	¥ 75,404	忘年会、ドイツ語講習会、新春講演会、
	総会懇親会費収入	¥ 157,500	¥ 175,500	4500x35
	寄付金	¥ 30,000	¥ 54,007	
	受取利息	¥ 100	¥ 4	
	雑収入	¥ -	¥ 11,600	冊子頒布9500、,写真代1100、
	収入の部合計	**¥ 1,092,925**	**¥ 1,189,840**	

支出の部	協会通信作成費	¥ 90,000	¥ 47,800	
	通信費	¥ 130,000	¥ 126,133	
	行事支払諸費用	¥ 5,000	¥ 19,909	ﾋﾞｰﾙ祭り2000、ドイツ料理勉強会17909、
	会議費	¥ 60,000	¥ 28,764	理事会,総会,連合,ﾎﾞﾄﾙｼｯﾌﾟ,運委,新春講演会,等
	車代、謝礼	¥ 50,000	¥ 50,000	総会、新春講演会、
	団体年会費	¥ 50,000	¥ 50,000	ちば国際コン･ﾋﾞｭﾛｰ,千葉市国際交流,船橋市国際交流,全国日独
	印刷文具費	¥ 45,000	¥ 26,109	
	総会懇親会支払	¥ 157,500	¥ 166,500	総会懇親会費用
	交際費	¥ 30,000		特別会計で処理
	ホームページ管理費	¥ 99,800	¥ 99,770	HP管理費(毎月)、ﾄﾞﾒｲﾝ･ｻｰﾊﾞ契約･使用料¥2600、
	事務経費	¥ 40,000	¥ 40,000	
	備品購入費	¥ 5,000		
	記録費		¥ 1,620	
	交通費	¥ -	¥ 4,120	茨城県日独文化協会総会出席用交通費
	宿泊費	¥ -		
	雑費	¥ 5,000	¥ 12,576	振込手数料、冊子購入8500、
	支出の部合計	¥ 767,300	¥ 673,301	
次期繰越金		**¥ 325,625**	**¥ 516,539**	
支出の部総合計		**¥ 1,092,925**	**¥ 1,189,840**	

2017 年度(平成 29 年度) 千葉県日独協会事業報告（案）

1.主な会議：

1.1. 運営委員会：

合計 12 回。原則毎月第 2 土曜日に開催された。

2017 年 4/8、5/13、6/10、7/8、8/5、9/9、10/14、11/4、12/9

2018 年 1/13、2/10、3/10

1-2. 理事会：

日時 2017 年 4 月 15 日(土) 15:00～17:00

場所 船橋市中央公民館

議事 2017 年度(平成 29 年度) 総会付議事項の承認

1-3. 年次総会：

日時 2017 年 5 月 20 日(土) 15:15～16:15

場所 船橋市中央公民館

次第 議事 15:15～16:15

・2016 年度(平成 28 年度) 事業報告、決算報告の承認及び会計監査報告

・2017 年度(平成 29 年度) 事業計画、収支予算の承認

・役員について 会長、副会長、専務理事、常任理事、理事、監事の選任

・その他

記念講演会 16:30～17:30

・ 講師 成田 久江氏（当協会会員、市川市国際交流協会会長）

・演題 「市川国際交流協会の過去・現在・将来」

～在外外国人と共に地域に根ざした国際交流を目指して～

懇親会 18:00～20:00 (Casa Grande=船橋西武 9 階) 会費 4500 円/人

2．実施した主要行事：定例行事、文化・教養行事、特別行事

3．千葉県日独協会通信「Die Eiche」の発行（6 回）

2017 年： No.106（4 月）、No.107（6 月）、No.108（8 月）、No.109(10 月)、No.110（12 月）、

2018 年： No.111(2 月)

4．千葉県日独協会ホームページの運営、管理

2013 年 1 月より公開し（http://jdg-chiba.com）、主要行事、記念行事、Die Eiche 等を掲載し、原則毎月更新・管理している。 2016 年 9 月以降、ホームページ管理委託者を変更し、現在に至る。

5．全国日独協会連合会総会

・総会 日時 2017 年 4 月 21 日(金) 10:00～17:00

場所 東京（六本木ﾐｯﾄﾞﾀｳﾝ・富士フイルムホールディング２Ｆ）

・懇親会 日時 4 月 21 日(金) 18:00～20:00 場所 ドイツ大使館大使公邸

・当協会から、金谷会長＝連合会事務局長、橋口副会長、須古副会長、渡部理事（連合会監事）が出席した。

以上

2018年度 新役員（敬称略）

名誉会長　平尾 浩三　宗宮 好和

会　長　金谷 誠一郎

副会長　須古 正恒

専務理事　杉田 房之

（事務局長兼会計担当）

常任理事　木戸 裕　二見 理一
吉川 三朗　渡部 武弘

理事　安藤 永一　伊東 惇子
岡村 三郎　尾崎 裕一
勝見 浩明　川口 正光
北村 侑三郎　木戸 芳子
近藤 弘　坂本 隆夫
坂本 宗秋　志賀 久徳
田中 正延　土屋 有里
友野 信善　内藤 敏子
中野 泰行　西阪 知晃
野村 陽子　堀江 弘隆
本間 実里　松江 美代子
宮籐 宏　室田 真由見
本橋 緑　綿貫 尚

監　事　小野 浩　吉田 千賀子

事務局　宇賀 博

顧問　林 静誠
マティアス ライボルト（ドイツ連邦共和国大使館 ドイツ陸軍大佐）
兒玉 泰幸（陸上自衛隊第一空挺団長兼習志野駐屯地司令陸将補）

名誉会員　臼井 日出男　田久保 忠衛
橋口 昭八

（注）　1．任期は、2018年5月12日から、2020年定例総会まで。

2．下線__は、新任。

日独交流国際会議 2018

設立30周年記念事業盛大に開催

設立30周年記念全国日独協会連合会年次総会報告

「日独交流国際会議」と銘打って、5月20日の「しいの木迎賓館」での前夜祭を皮切りに開催された年次総会は、21日には近隣の「歌劇座」に於いて、「日独交流国際会議」の名の下、石川県と金沢市の協賛を得て開催された。

駐日ドイツ大使館のグラープヘア公使夫妻、石川県庁、金沢市、ドイツとの交流のある、かほく市、白山市からの招待者10名、独日協会を中心とするドイツからの参加者70名余、全国日独協会連合会関係者28協会会員120名余の合計約200名余の参加者を得て09:00より主催者、来賓の挨拶で始まった。10:00からは、ルプレヒト・フォンドラン独日協会前会長と橋本孝全国日独協会副会長から「日独交流の歴史と発展」の講演があり、続けてシュテファン・グラープヘア首席公使による「日独交流の持続ある発展のために」との演題で参加者を鼓舞する内容の講話がなされた。

昼食後は、連合会総会の下記決議事項を決議し、報告事項が事務局より報告された。

【決議事項】

1. 連合会役員の選出では、古森会長、木村会長代行、監事2名（瀬下氏、渡部氏）の留任。
2. 連合会会員の長岡日独協会の退会。
3. 2017年度の決算（収入：1,437,510円、支出：次期繰越運転資金628,310円を含めて1,437,510円を決議。
4. 2018年度予算は、年会費825,000円を見込み、連合会記念事業積立金200,000円の取り崩しと前期繰越運転資金合わせて1,653,310円の収入＝支出として承認。

【報告事項】

1. 副会長人事は、北海道、仙台、とちぎ、ぐんま、大阪、神戸、西日本の副会長は、留任、豊橋は前会長が名誉会長に昇進、前会長のご子息、神野吾郎氏が副会長に、名古屋は前会長が他界の為、金武　直幸氏が副会長に就任。又、横浜の早瀬勇会長が、連合会副会長に選出された。
2. 日独ユースネットワークの収支は、2,116,812円で収入、支出が同額として監査報告が行われ、2018年度予算案も収支が4,908,942円で報告された。3. その他では、来年の連合会総会が4月19日（金）～20日（土）に新潟にて開催されるとの報告有り。

14:00からは、各地日独協会がこれまで1年間の活動を報告。当協会としては、暫く実施していなかった料理教室「ドイツパンと料理を楽しむ会」を昨年10月と今年3月に開催、又、昨年11月の「ドイツ軍人慰霊祭」に参加された大使館のライボルト武官から、「2018年は、第一次大戦終了100年であり、例年より規模を拡大して・・」との示唆があったことを報告。17:30に各地の報告が終了。

徒歩約30分の老舗料亭「つば甚」（創業260余年）では、12人で正方形の卓を囲むテーブルに籤引きで着席。（飲食代1万円は個人負担。）偶々私の隣りには、ブラウンシュヴァイクーパイネーヴォルフスブルグ地域独日協会のバローグ＝クラウス輝子会長が座られて、長年に及ぶ同地での活躍ぶりを語って頂いた。特に鳴門の板東収容所をドイツに紹介するにあたり、鳴門市に大いに協力されたとの事。

最終日の22日は、09:00～11:50迄、2つのワークショップが行われた。

1. 日独若手交流の現状：
   - 1-1.日独ユースネットワーク
   - 1-2.JG-Youth Connectのイベント紹介
   - 1-3.日独相互訪問
   - 1-4.ドイツで最大の「Jポップ」ANIMEXX　活動紹介。
2. 日独地域間交流、地域間支援の実例紹介：
   - 2-1.三陸復興
   - 2-2.絆ベルリンの東北支援活動
   - 2-3.NRW州の福島県経済・産業復興支援
   - 2-4.豊橋日独協会による東北復興支援
3. 工芸での交流、禅宗での交流（Oliver Geppert氏の修業活動、日独演劇交流に関する紹介

14:50 「金沢宣言」を発表して閉会した。

（会長　金谷　誠一郎）

第一次大戦終結100周年

オーストリア100年の歩み

Dr. Christian Rapp講演会（4月23日、25日）

2018年は、欧州史の観点からみると様々な記念の年となる。古くは、30年戦争終結から400周年、第一次世界大戦終結から100周年、プラハの春勃発から50周年。今回、オーストリア文化フォーラム、社団法人・第一次世界大戦博物館によるChristian Rapp博士の講演会では、オーストリア100年における出来事をどのように解釈できるかという観点で講演が行われた。オーストリア皇太子夫妻が暗殺される夏、人々は、優雅な文化生活、バカンスを謳歌していた。当時の世論としては、これまでの内戦の経緯、「あり特定の政治家が戦争を期待している」という思い込みから、1914には戦争が起こるであろうとする見方と19世紀末、カールマルクスによる「世界の労働者よ団結せよ」の呼びかけにより社会民主党が設立、婦人運動も活発化され、将来、戦争はなくなるであろうといする見方があった。文化的な興隆を示す例としては、オーストリアは、2013年まで13のノーベル賞を受賞しているが、1905-1936年の間の受賞数は、9を占めていた。

Rapp博士プロファイル

文化学者、展覧会計画実行者、ウィーン大学講師、芸術デザイン、映画、メディア研究など多方面で活躍。今年1月からニーダーエスタライヒの歴史の家博物館館長

一方、ロシア、フランス、イギリスの同盟関係と対立するドイツ、オーストリア間同盟にあって、ドイツは、ロシアの軍事的な脅威を感じ、オーストリアは、ボスニアの併合により隣接するセルビア王国との併合を望む民族主義問題を抱えていた。多民族国家であったオーストリアにとって、ボスニアは、国家維持の為、生命線であり、失うことは、オーストリア帝国の崩壊であると認識していた。

1910における民族分布-Wikiより引用

各国のスタンスは、自分たちではなく、他国が戦争をしかけようとしているという疑心暗鬼を要因として同盟関係に基づき、破滅的な戦争に至った。1918年からの100年の特徴的な時代区分として1918年は、婦人参政権が早期に導入されるような進歩的な世相の一方でキリスト教民主党、社会民主党、双方が党の軍隊を擁する社会的分断、また、双方の政治ポスターを見ると、オーストリアを苦しめる悪者は、ユダヤ人層であると表現されている。それは、1938年におけるドイツによるオーストリア併合において反ユダヤ的な活動が活発に展開されたが、1918年当時より反ユダヤ主義は根付いていたものと思われる。博士は、併合時の英雄広場におけるオーストリア国民の歓待の画像を示し、「オーストリアは、被害者では無いのは明らか」と説明されていたのは、印象的であった。

キリスト教民主党ポスター-Wikiより引用

社会民主党ポスター-Wikiより引用

尚、オーストリアの共和国100年の歴史は、"Haus der Geschichte Österreich"（オーストリア歴史の家）*で開催が計画されており、ウィーンのホーフブルクで11月より展示される。

1938オーストリア併合時の歓喜の状況

また、23日の講演で放映された「サラエボから1914第一世界大戦は始まった（独語版）」は、下記URL**にて閲覧できる。　（編集委員：金谷、本間、勝見）

*https://www.hdgoe.at/ （オーストリア歴史の家）

**https://www.youtube.com/watch?v=TijQYxqdfew

（Von Sarajevo zum ersten Weltkrieg 1914）

会員限定 Facebook開設

ドイツ（ドイツ語圏含む）の政治。経済、音楽、歴史、旅行、ドイツ語等の最新の情報を会員限定のFacebook（非公開/秘密グループ）を開設しました。Facebookの利用は、無料です。ARD，ZDF，DW，ORF等の日々のドイツニュースも掲載します。ドイツ語を身近に接することができます。このFacebookに参加されたいと思われた方は、勝見までご一報ください。

連絡先: k3717falkon@hotmail.com

観客を魅了する高度な演奏

県立千葉女オーケストラ部

5月4日、千葉県文化会館にて同校の第25回スペシャルコンサート（第10回 ヨーロッパ演奏旅行記念）が開催された。プログラムは、三部部構成となっており、第一部、歌劇「ローエングリン」第三幕前奏曲、チャイコフスキー「バイオリン協奏曲」、第二部は、和太鼓「稲妻」、琉球舞踊「貫花」、第三部、エグモント序曲、交響組曲「シェヘラザード」、歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」等であった。3/31 ニュルンベルクにおけるドイツ演奏にて現地の聴衆より、スタンディングオベーションによる大歓声となったことが充分納得できた。非常にレベルが高い、芸術性が極めて高い演奏会であった。

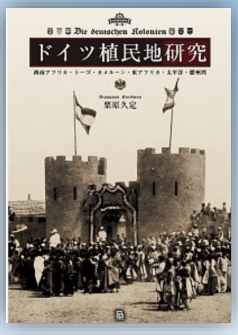
しかも和の音楽における太鼓、舞踏での演出も観客を魅了させた。ローエングリンにおける金管楽器の重厚なサウンドから一気に迫力ある演奏に引き込まれまた。ファゴット、クラリネット、オーボエをはじめとする各楽器の醸し出す個々の楽器の発音の美しさ、また絃楽器のとても重厚でありながら、かつ艶やかな音色。会場のムードを惹きつけるパーカッション演奏、和太鼓の迫力、きびきびした演奏スタイル、演奏技術もさることながら、その演奏技術に感嘆を禁じ得なかった。沖縄舞踊は、日本文化の美しさを改めて感じた。マーチングバンド的な演奏もとても楽しい内容と感じ、非常に充実した時間を過ごした。

＊画像上から2点は、山岡先生より受領、最下段は、千葉女HPより　許可を得て引用

映画/Film

カール マルクス生誕200年記念作品として「マルクス・エンゲルス」という映画が岩波ホールで6月15日まで上映されている。19世紀半ばの2名のドイツ人思想家の若き日伝記に関心ある方には鑑賞の価値有り。

書籍/Buch



昨年、ナミビアよりドイツ植民地時代の虐殺に対して集団訴訟が行われた。現代にも影響ある史実としてとらえる必要がある。19世紀後半以降，第一次大戦終結までの30年間のドイツのアジア、アフリカで展開された植民地政策をまとめた貴重な書籍。栗原久定著、パブリブ社刊、18/5/10発売、¥4,212-

お知らせ

千葉フォーラム歴史・文化の会（当協会後援、代表、須古正恒＝当協会副会長）

第69回勉強会

日時：　7月15日（日）14:00-15:30

場所：　船橋市中央公民館　第8集会室（5階）

テーマ：　「不都合な歴史ードイツ捕虜余話」

講師：　星　昌幸氏（習志野市学校給食センター所長）

参加費：　¥1,000-（当日会場でお支払い下さい）

習志野俘虜収容所の初代所長**西郷寅太郎（西郷隆盛の嫡男）**にまつわるエピソードを中心に、講師が今までの講演で触れていない幾つかの論点を取り上げます。ぜひご参加ください。

訃報

協会設立以来、副会長として当協会を支えていただきました國枝　誠昭様は、4月８日に他界されました。享年８６。葬儀は、4月13日（金）12：30から稲毛の千葉キリスト教会にて行われ、当協会からは平尾、宗宮両名誉会長、橋口、須古両副会長、坂本、野村両理事と金谷会長が参加、橋口副会長が2005年の「ドイツに親しむ3日間」で、故人が献身的な働きをされた思い出等を振り返り、弔辞を述べられました。金谷　（写真中央が國枝氏、右側が舘野氏（故人）於ドイツ大使館、2006年9月）

編集後記

2018年は、1918年から100年となります。この20世紀初頭の社会文化の興隆と国際政治的不安定な状況は、現代の時代状況と同じであるという点をDr. Christian Rappは、主張されました。総会終了後の講演で紹介された115枚の画像も同時代の出来事となります。今年は、歴史的に振り返る価値があるテーマは勿論ですが、ドイツ並びにドイツ語圏の文化、歴史、現状を掲載、また時には、ドイツ語情報も時折取りまぜながら、新鮮な情報を読者の皆様と共有できるよう努めたいと思います。 勝見 浩明